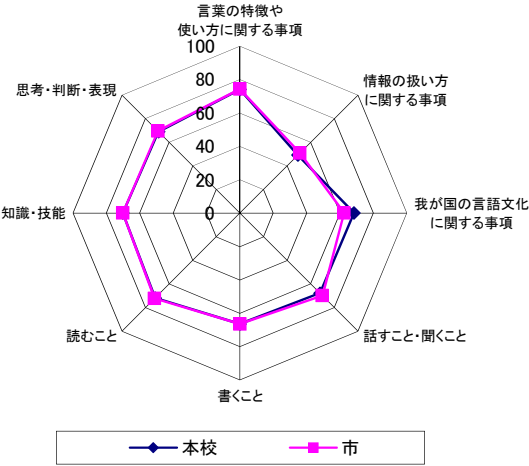


宇都宮市立細谷小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.2	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	49.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	68.4	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	67.8	69.9	69.7
	書くこと	66.4	66.4	64.6
	読むこと	71.9	72.3	71.0
観点別	知識・技能	70.2	70.1	70.0
	思考・判断・表現	68.9	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

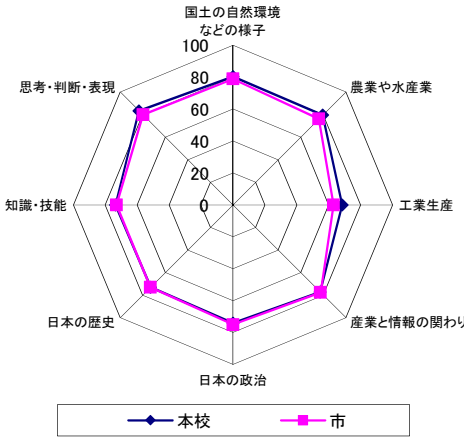
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・本校の正答率は74.2%で、市の正答率74.3%より0.1ポイント低かった。 ○●5.6年生の漢字の読み書きの問題では、読みはすべての問題で市の正答率より高かった。一方で書きでは、市の正答率より低かった問題が多かった。 ●段落を付けて文章を書く問題の正答率は63.2%で、市の正答率69.2%より低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小学校で習う漢字を、プリントやドリル等で復習を繰り返す行う。特に漢字の書き取りの学習を重点的に行うようにする。 ・自分の意見や考えを、段落を意識して文章に表すことができるように指導をしていく。
情報の扱い方に関する事項	●本校の正答率は49.1%で、市の正答率50.9%より1.8ポイント低かった。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する問題の正答率が22.8%で、市の正答率26.5%より低かった。 ○表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているものを選ぶ問題の正答率が96.5%で、市の正答率90.8%より高かった。	・提示されている資料の中から、伝えたい内容だけを選んで読み取る力が身に付くよう指導していく。 ・資料の中の言葉を使用しながら、伝えたい内容を文章にまとめる力を高められるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は68.4%で、市の正答率62.4%より6.0ポイント高かった。	・伝統的な言語文化に関する指導については、第1学年から第6学年までの各学年において継続的にを行い、古典に親しめるようにする。
話すこと・聞くこと	●本校の正答率は67.8%で、市の正答率69.9%より2.1ポイント低かった。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う問題の正答率は26.3%と低いものの、市の正答率25.4%より高かった。 ●計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を考える問題の正答率は78.9%で、市の正答率86.1%より低かった。	・話し合い活動の中で、計画的に話し合い、考えを広げるためにどんな工夫をするとよいか、理解を深める必要がある。 ・意見を聞いて、要約したり、整理して書いたりすることができる力を身に付けられるように指導していく。 ・自分の意見を持ち、その内容を分かりやすく伝えたり、文章で表現したりできるよう、意識して指導していく。
書くこと	・本校の正答率は66.4%で、市の正答率と同じであった。 ○指定された長さで文章を書く問題の正答率は77.2%で、市の正答率72.0%より高かった。 ○事実を基に自分の意見を明確に書く問題の正答率は63.2%で、市の正答率61.5%より高かった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は63.2%で、市の正答率69.2%より低かった。	・段落構成を工夫しながら文章を書くなどの練習を積み重ね、書くことへの意欲を高められるようにする。 ・資料を読み取り、その読み取りから自分の意見をまとめて書くなど、まとめて書く力を身に付けられるよう指導していく。
読むこと	・本校の正答率は、71.9%で市の正答率72.3%より0.4ポイント低かった。 ○物語の内容を読み取る問題では、すべての問題で市の正答率より高かった。 ●説明文の内容を読み取る問題では、文章全体の構成捉える問題の正答率が45.6%で、市の正答率53.2%より低かった。	・読書活動の充実が、物語文の読解力向上につながっていると考えられるので、今後も引き続き読書活動の充実を図る。 ・説明文の学習については、段落ごとに要点をまとめたり、段落どうしの関係について、図示をしながら、文章の構成や文章の進み方の理解を深められるよう指導をしていく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.4	78.9	75.4
	農業や水産業	79.5	76.1	71.2
	工業生産	68.4	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.2	77.6	59.7
	日本の政治	74.1	75.0	79.3
	日本の歴史	73.0	73.1	72.8
観点別	知識・技能	73.7	73.0	71.4
	思考・判断・表現	83.3	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

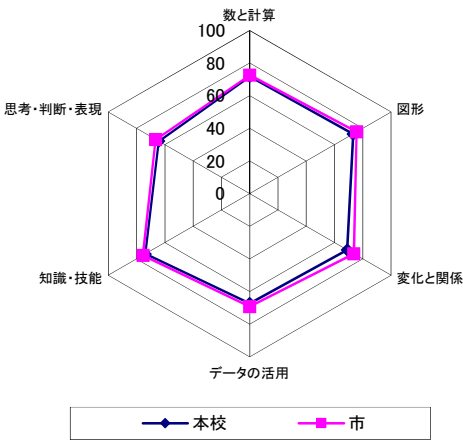
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○本校の正答率は80.4%で、市の正答率78.9%より1.5ポイント高かった。 ○日本の周辺の海洋名についての理解は、本校の正答率は89.5%で、市の正答率87.3%より高かった。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る問題の本校の正答率は45.6%で市の正答率49.7%より低かった。	・日本の主な地形の名称や位置に対しての理解を深める必要がある。 ・世界の国々に対して興味関心を高めていけるよう、資料を活用して学習内容の定着化を図る。
農業や水産業	○本校の正答率は79.5%で、市の正答率76.1%より3.4ポイント高かった。 ○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉える問題の本校の正答率は91.2%で、市の正答率83.2%より高かった。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題の本校の正答率は57.9%で、市の正答率61.7%より低かった。	・農業や水産業に関する理解度は高いので、今後も児童の興味関心を高めるため、新聞・報道などを例に取り上げる。 ・地図で都道府県の位置を確認したり、統計を読み取って特色をまとめたりするなどして、生活と結び付けて再確認し、理解を深めていく。
工業生産	○本校の正答率は68.4%で、市の正答率62.9%より5.5ポイント高かった。 ●自動車工場の作業工程についての問題の本校の正答率は68.4%で、市の正答率70.9%より低かった。 ○日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る問題の本校の正答率は82.5%で、市の正答率65.1%より高かった。	・工場の作業工程の動画を視聴させたり、工場の規模や役割、原料の輸入問題を考えさせたりするなどして、日本の経済を支えている工業生産の重要性に、児童が気付けるようにする。
産業と情報の関わり	・本校の正答率は77.2%で、市の正答率77.6%より0.4ポイント低かった。 ○インターネットを利用するときの注意点として正しいものを選択する問題の正答率は91.2%で、市の正答率88.9%より高かった。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題の正答率は63.2%で、市の正答率66.2%より低かった。	・情報ネットワークの利便性を理解し、正しい利用法について様々な面から考えることができるように、多くの資料を活用して調べ、表現する活動や経験を増やしていく。
日本の政治	・本校の正答率は74.1%で、市の正答率75.0%より0.9ポイント低かった。 ○国会の仕組みに関する問題の正答率は75.4%で、市の正答率71.2%より高く、裁判の仕組みに関する問題の正答率も82.5%と市の正答率79.6%より高かった。 ●日本国憲法の三原則についての問題の正答率は61.4%で、市の正答率69.4%より低かった。	・日本国憲法の重要性について、日常生活から具体例を挙げたり、本やパソコンなど様々な資料を活用したりすることで理解を図る。 ・日本の政治については、新聞やテレビのニュースなどからきっかけを探し、授業の導入や発展学習に活用するなど、意欲を引き出す工夫をしていく。
日本の歴史	・本校の正答率は73.0%で、市の正答率73.1%より0.1ポイント低かった。 ○飛鳥時代の出来事についての問題の正答率は70.2%で、市の正答率58.8%より高かった。 ○織田信長の勢力拡大について、資料をもとに判断する問題の正答率は96.5%で、市の正答率91.7%よりも高かった。 ●鎌倉時代の元寇について資料を読み取る問題の正答率は71.9%で、市の正答率75.2%より低かった。 ●室町時代の文化についての問題の正答率は63.2%で、市の正答率74.4%より低かった。	・歴史は覚える内容が多いが、各時代の流れを、有名な人物や出来事に着目しながら理解していくようにする。 ・人物や出来事、文化などを具体的に理解するために、資料を読み取りながら、新聞にまとめる作業等を増やし、学習内容の定着を図る。 ・NHK for schoolの動画教材を積極的に活用し、理解を深める。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.8	72.6	73.1
	図形	73.2	75.7	74.7
	変化と関係	69.0	73.6	66.1
	データの活用	67.3	69.2	70.7
観点別	知識・技能	73.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	64.3	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

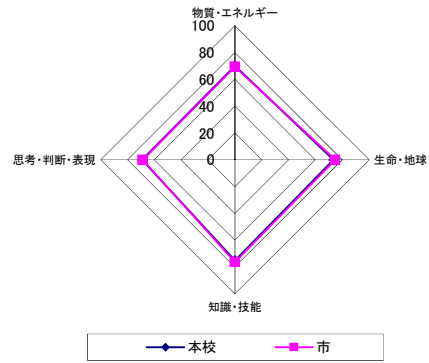
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本校の正答率は71.8%で、市の正答率72.6%より0.8ポイント低かった。 ○小数の計算の問題の正答率は94.7%で、市の正答率82.3%より高かった。 ●分数の計算で、約分がある分数の除法の問題の正答率は77.2%で、市の正答率86.3%より低かった。	・今後も引き続き、計算ドリルやプリント等を使い繰り返し練習することで、基礎・基本の定着を図っていく。 ・小数・分数など身に付いた正しい知識や技能を使って、図で考えたり、自分の考えを表現したりする場面を授業の中に設けていく。
図形	●本校の正答率は73.2%で、市の正答率75.7%より2.5ポイント低かった。 ○高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める式をたてる問題の正答率は73.7%で、市の正答率68.6%より高かった。 ●線対称な図形の対応する点を見つける問題の正答率は38.6%で、市の正答率48.9%より低かった。	・線対称や点対称な図形について、デジタル教科書を活用したり、図に描き表したりするなど、視覚的に分かりやすく指導していく。
変化と関係	●本校の正答率は69.0%で、市の正答率73.6%より4.6ポイント低かった。 ○単位量当たりの大きさの面積と人数の割合を求め、どの公園が最も込んでいるかを求める問題の正答率は75.4%で、市の正答率73.3%より高かった。 ●単位量当たりの大きさの速さの問題で、速さの単位を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の正答率は42.1%で、市の正答率56.9%より低かった。	・混み具合・平均・速さなど単位量当たりの大きさの表す意味について理解できるよう、図や数直線を積極的に活用し、公式だけに頼らない指導をする。 ・児童同士が説明し合う、主体的・対話的な学びで理解を深めていけるよう、意図的にペア学習やグループ学習を設定していく。
データの活用	●本校の正答率は67.3%で、市の正答率69.2%より1.9ポイント低かった。 ○度数分布表を完成させる問題の正答率は89.5%で、市の正答率87.6%より高かった。 ●代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録かどうかを説明する記述式の問題の正答率は26.3%で、市の正答率29.8%より低かった。	・データの見方では、平均値・中央値・最頻値などの意味を理解し、様々な見方で考察するとともに、それぞれの代表値の目的に着目し、どの値を用いるのが妥当であるか、その値によって何が言えるかについても考察させ、繰り返し指導する。 ・データのどの代表値に着目し、自分が判断した根拠を説明する学習を授業で積極的に取り入れていく。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	69.3	65.7
	生命・地球	73.6	74.7	77.8
観点別	知識・技能	75.1	76.2	76.4
	思考・判断・表現	69.0	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本校の正答率は69.9%で、市の正答率69.3%より0.6ポイント高かった。 ○物の燃え方の「ろうそくの火が消えた理由についての考察を改善し、記述できる。」問題の正答率は61.4%と高くはないが、市の正答率51.9%より高かった。 ●ふりこのきまりの「ふりこの1往復する時間の求め方を理解している。」問題の正答率は47.4%で、市の正答率52.4%より低かった。 ○電流のはたらきの「コイルの巻き数の多い電磁石が、強い磁界を生じることを理解している。」問題の正答率は93.0%で、市の正答率90.1%より高かった。 ○物のとけ方の「水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことを理解している。」問題の正答率は89.5%で、市の正答率77.9%より高かった。 ●もののとけ方の「ものが水にとけて透明になった液のことを、『水よう液』』ということを理解している。」問題の正答率63.2%で、市の正答率より76.5%より低く、無解答は市より8.3ポイント高かった。	・個別の実験セットで実験したものは、正答率が高かった。また、実体験に近いものほど正答率が高かった。実験には意欲的に取り組むことができるので、自分で予想を立てて実験を行い、結果を考察し、自分の言葉でまとめることができるように継続して指導していく。また、児童の体験や経験と学習内容を結び付けていくことで、定着を図る。 ・新型コロナ対策等で実際に体験できない事象については、デジタル教科書やNHKforSchoolを活用したオンライン教材視聴等を通して、基礎的知識を定着させていくようにする。
生命・地球	●本校の正答率は73.6%で、市の正答率74.7%より1.1ポイント低かった。 ○天気の変化の「台風に備えた適切な行動を理解している。」問題の正答率は96.5%で、市の正答率93.7%より高かった。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の「呼吸のはたらきにより空気と呼吸とで成分がどのように変わるかを理解している。」問題の正答率は59.6%で、市の正答率68.0%より低かった。 ●「植物のからだのつくりとはたらき」の「日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぶんをつくるはたらきの観点から記述できる。」問題の正答率は43.9%で、市の正答率49.2%より低かった。 ○「生物とかんきょう」の「食べ物を通した動物と植物の関係を指摘できる。」問題の正答率は94.7%で、市の正答率87.8%より高かった。	・「生物とかんきょう」の学習は、動画の視聴や書籍による調べ学習が中心になる単元のため、学習内容の理解が難しかったのではないかとと思われる。今後は調べ学習で身に付けた知識を定着させるよう、授業のまとめなどを工夫していく。 ・実験結果から考察して観点に沿った文章でまとめる問題の正答率が低くなっている。国語の知識・理解の学力が大きく関わっていると思われるので、実験や観察で得た知識を文章で表現できるよう、理科の学習でも書く活動を取り入れていく。 ・だ液の働きを確かめるための、対照実験を指摘する問題では、正答率が低くなっていた。学習する際には、何を確かめる実験なのかその目的について確かめ、実験の結果から科学的に考察し、さらに活用する力を育てていく必要がある。

宇都宮市立細谷小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の基礎・基本の定着を図り、できた喜びが学ぶ意欲へとつながる指導の工夫。	・宿題の内容で再テストを行う漢字・計算オリンピックの年2回の実施により、積み重ねがよい結果に結びつく喜びを味わわせ、自信をつけさせる。 ・算数科における少人数・習熟度・T・Tにより、個別支援を充実させ、分かる喜びを味わわせる。	・「勉強が好きですか。」という質問に対して、本校の肯定割合は、1年生が88.0%、2年生が66.7%、3年生が76.6%、4年生が62.7%、5年生が54.9%、6年生が64.4%であり、1年生と6年生以外の学年は市の肯定割合より低かった。 ・3年～6年生の算数科について「好きですか。」という質問に対して本校の肯定割合は3年生が79.7%、4年生が58.7%、5年生51.2%、6年生66.1%であり、3年生以外の学年は市の肯定割合より低かった。
互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫。	・「学習の約束」を定着させ、教師や友達の話をよく聞き、落ち着いて学習する環境を整える。 ・感染症対策をしながら、可能な限りペアやグループ学習で学び合いの場を確保する。	・「先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている。」という質問に対して、本校の肯定割合は、1年生が90.4%、2年生が97.3%、3年生が85.9%、4年生が93.3%、5年生が84.1%、6年生93.2%で、2年生以外の学年は市の肯定割合より低かった。 ・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」という質問に対して、本校の校内肯定割合は、1年生が78.3%、2年生が81.3%、3年生が76.6%、4年生が70.7%、5年生が72.0%、6年生が88.1%で、2年生と6年生以外の学年は市の肯定割合より低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「自分にはよいところがあると思いますか。」の校内肯定割合は、1年生が85.5%、2年生が78.7%、3年生が82.8%、4年生が80.0%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の校内肯定割合は、5年生が76.8%、6年生が89.8%で、3年生と6年生以外は市の肯定割合より低かった。次年度も今年度に引き続き、互いに認め合い、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態を工夫し、自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の充実を図る。

・国語の「話すこと・聞くこと」の正答率は67.8%で、市の平均正答率よりやや低かった。「先生や友達の話、最後まできちんと聞いている。」や「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している。」のアンケート結果からも、次年度は、話しの聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成をさらに重視し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。

・自分の考えを文章や言葉、式に表すことに苦手意識をもつ児童が多いので、自分の考えや意見をもち、文章や言葉、式で表したり、発表したりする機会を増やすことで、自らの考えのよさに気づき、自信をもつことができる指導を工夫していきたい。まず、授業の振り返り等で自分の意見や感想を文章で表し、それを発表する場を取り入れる。